# 貫井の風

 令和2年度
 2月号

 NO.10

練馬区立貫井中学校 学校だより

# 「青春の夢に忠実であれ」

校長 桐野 和之

私たちは何かをしようとするときには、たいていそれをいつまでに、どんな方法で、どこまでやり遂げるのか目標を立てて行います。また、人は目標があるとその目標達成をめざしてがんばろうという気持ちが出てきます。ところが、目標を失うと自分が一体どこをめざしていけばよいのかがわからなくなり、仕事も進まず気が付くと目標に向かってチャレンジしようという気持ちさえもなくなってしまっていることがあります。



また、目標を立てても少し困難なことがあると、やっぱり自分には無理と言って努力 もせずに諦めてしまい、掲げた目標を達成できずに終わってしまうこともあります。

「青春の夢に忠実であれ」という言葉は、若いころに掲げた「夢」を大切にし、その夢の実現に向けて一歩一歩進んでいきましょうと言っているのです。

たとえば、小学校から中学校に進もうとするときや中学校から高等学校などを選ぶときなどに、自分はこの先、こんな仕事をしてみたい、あるいは、こんな大人になっていきたいと、将来への夢や目標を掲げます。そして、その夢の実現に向けて、一歩一歩歩き始めます。

さて、日本の宇宙飛行士、山崎直子さんについて紹介します。

山崎さんは幼い頃から宇宙に強い関心をもっていました。それがしばらくするうちに、憧れへと変わっていき、その後は、いつか自分もあこがれの宇宙に飛び出してみたいと思うようになりました。そして山崎さんが、宇宙飛行士になる夢を持つようになったのは小学校低学年の時だったそうです。その山崎さんが中学三年生の時、アメリカのスペースシャトル・チャレンジャーが打ち上げられましたが、その直後に大爆発を起こし七人の宇宙飛行士が命を落としてしまうという事故が発生しました。その事故を知った山崎さんは、事故の恐怖よりも、命を懸けて宇宙に行こうという人たちの尊い志を継いでいきたいと、宇宙飛行士への道を歩み始めたのです。

訓練は大変厳しく、語学の研修はもとより、宇宙に関する基礎的な知識、さまざまな 過酷な場面を想定した訓練など、それは厳しい訓練が毎日続いたそうです。そのうえ、 出産や育児、また、両親の介護も重なり、しばらくはご主人の助けを借りながら苦労の 毎日が続いたそうです。

しかし、そのような生活や過酷な訓練に最後まで負けなかった山崎さんは、二〇一〇年四月五日、ついに幼い頃からの夢をかなえる時がやってきました。山崎さんは、子どものころにもった夢の実現に向けて努力を続けるうちに、とうとう日本の女性で二人目の宇宙飛行士になり自分の夢を実現させたのです。

紹介した「青春の夢に忠実であれ」という言葉は、少年時代や青春時代に自分の将来の夢を、僕は先生、野球選手、私は看護師、花屋さん、宇宙飛行士など、自分の将来の夢を思い思いに描きながら夢の実現に向かう姿は、たとえその夢が実現しなかったとしても尊いということであると思います。

皆さんにも、自分の可能性を信じ、夢の実現に向けて努力を続けていくことを大切に してほしいと思います。

# 私の中学生時代 ~シリーズ③~

主任教諭 上野 美貴子

中1の冬のとある日、新聞作りの作業を遅くまで何人かでやっていた時に、堅物の担任の先生がホカホカの酒まんじゅうをごちそうしてくださって、とてもおいしかった記憶が残っていて、酒まんじゅうを見るたびにいつも懐かしく思い出されます。



残念だった思い出としては、軟式テニス部に入っていましたが、テニスコートの横に、結構大きな川があり、コートから飛び出たボールを毎日、河原に拾いに行かなければならなかったことです。そして、練習に励んで臨んだ最後の大会が、運悪く長年優勝し続けている強豪校と当たり、2時間も炎天下待たされたあげく、残念ながら負けてしまったことです。相手校はもちろん優勝しましたが、もう少し別の学校と対戦し、試合をして勝ち抜きたかった悔しい思い出です。

中3の夏休みには、クラスで行った初めてのキャンプでのことが思い出として残っています。女子5人位のメンバーで、何度か失敗しながらも山の中腹に自分達のテントを張ったことや飯盒での米のとぎ方や水の計り方、薪を使ってのご飯の炊き方などを学び、ちょっと柔らかめのカレーライスを食べたこと。地面が少々ごつごつしたテントの中で、夜友達と語り合いながら過ごした経験はどれも懐かしく楽しかった思い出です。その経験があったからこそ、大学生の時に、尾瀬散策や約20キロの荷物を背負って白馬岳から後立山縦走をしたこと、そして社会人になってからの富士山登山やなど、山歩きを楽しむことにもつながりました。

教諭 八田 大空

私の中学生時代の思い出は、学校外の野球チームで過ごした日々です。

私は、小学校時代から地域のリトルリーグに所属していたため、硬式野球をしていました。そのため、中学校入学時には中学校の部活動ではなく硬式野球のクラブチームを選びました。クラブチームの練習は、平日は放課後練習、土日に練習、または試合という形で行われていました。

私のチームの練習は本当にきつくて、他のほとんどのチームと比べても圧倒的にきつかったと思います。いつも「Nightmare! (悪夢という意味です。)」とチームメイトたちと話しながらやっていました。練習が厳しいだけあり、全国大会に出場することがあったり、大会では上位に勝ち進むことがほとんどでした。(私の代はあと1回勝てば全国のところで負けてしまいました。)

今でも忘れられませんが、練習中のなにがきつかったというと、1 ランニング、2 食トレ、3 トレーニングでした。特にランニングメニューは本当にきつくて、今では考えられませんが、真夏も含めて練習の最初のメニューは全員で足を合わせて30分完走を行うのですが、足が1人でもずれると「again(最初から)」と指示が出るのです。そして、練習の最後には「マダンテ」と呼ばれるタイム走を行いました。約200mあるコースを33秒で戻ってくるというメニューなのですが、1人でもタイムを切れないとカウントされませんでした。そのメニューをやっているときにはチームメイトと涙流しながらやっていることもありましたが太ももは本当に太くなり、ピッチング・バッティング共に大きくレベルアップしました。食トレは身長-100の体重を目標に食事をとりましたが中学生の私にとって本当につらかったです。(余談ですが高校野球をやっているころは3合飯で朝・昼・晩3合食べていて中学時代とは比べ物にならないほどきつかったです(笑))そんなチームメイトとは違う高校に進学し、対戦することももちろんありましたが、今でも頻繁に集まる仲間です。この仲間と出会えたことが私にとって大きな財産となりました。

#### 受験する君へ

#### 想定と違っても世界は開ける~朝日新聞~

近畿大3年 林幸穂さん

「夢の周辺にいることが大事」。近畿大3年の林幸穂さん(21)が大切にしている思いだ。迷った時、この言葉に立ち返る。

中学時代、英語と化学が好きだった。文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールに指定されている県立伊勢高校に進んだ。2年の時、地元の化サスクリンの世界ではなり、中学となり、大学の世界では1941年



粧品会社との共同研究に参加。中高生向け基礎化粧品の開発を目指し、生徒の意見を聞く校内アンケートに奔走した。「テストで学年1位になれなくても、私なりの強みを見つけた気がした」。大学でも商品開発に携わりたいと考え、産学連携に力を入れる近畿大に狙いを定めた。同級生の多くは国公立が第一志望で、先生にも薦められた。でも「に狙いを定めた。同級生の多くは国公立が第一志望で、先生にも薦められた。でも、に以外は考えられない」と、公募型の推薦入試で近畿大に出願。手に入る限りの過去問題を集め、徹底的に傾向を分析した「攻略本」を作った。何でも根詰める性格なので、カフェで店員と世間話をしたり家で犬と遊んだり、心穏やかに過ごせる時間を意識的にた。そして、農学部に合格。入学の2か月後、奈良県庁に赴き、県産の植物を使った化粧品の共同開発を提案。教授にも持ちかけた。大学の研究は成果が出るまで長た化粧品の共同開発を提案。教授にも持ちかけた。大学の研究と市場をつなぐことなのかも」。2年から経営学部に転向した。「思っていた道と違う方向に進んでも、そこで開ける新しい世界がある」。ドミで今、美容商品を紹介する女性誌の言葉を分析なるこ別ける新しい世界がある」。ゼミで今、美容商品を紹介する女性誌の言葉を分析なるこのかも」。全職生だった頃の自分に言いたい。行き着いた先で何か見つかるから」。受験生だった頃の自分に言いたい。

## 「七五三の法則とは」~読売新聞編集手帳~

七五三の季節が来た。と書き出すと、今ごろ何を言っているんだと叱られそうだが、実は天気の話である。冬型の気圧配置が強まれば等圧線は縦じまになる。これが北海道付近に3本かかると、注意報クラスの強風が吹く。5本では警報級の風となり、7本で数年に1度の猛吹雪になる(等圧線の間隔が4ヘクトパスカルの場合)予報官が「七五三の、法則」と呼ぶ天気図の見方だという。

日本気象協会によると、東北地方は週末にかけて天気が荒れ、特に日本海側では猛吹雪が視界を塞ぐ(ホワイトアウト)の発生が懸念されている。先週は雪の東北自動車道で、突然の視界不良により19人が死傷する玉突き事故が起きた。車を運転する予定の方は細心の注意が必要だろう。春めいたのもつかの間、再び寒くなるとの予報が北国以外の地域にも出ている。雪の心配のない土地にお住いの方々には、「風邪ひき七五三の法則」を紹介させていただく。最低気温7度以下、前日との気温差5度以上、湿度30%以下で要注意だというから、気をつけたい。くしゃみ一つ、せき一つで、穏やかな気持ちの吹き飛ぶ時世である。

◎本校の特別支援教室専門委員を務めている中島博さんは、元中学校の理科の教員。そして気象予報士の資格を持っています。教員を定年退職後に予報士の資格を取得したそうです。中島さんに編集手帳に記載された「七五三の法則」について解説してもらいました。

「冬になると日本の西の大陸 (シベリア) は日照時間が滅り、乾燥した冷たく重い空気が溜まって高気圧ができ、日本列島の東、北海道や千島列島付近はシベリア大陸に比

べて暖かく低気圧が発生しやすくなり、西高東低の冬型の気圧配置になります。風の吹き方は、水が高いところから低いところに流れるのと同じように、空気の流れ(風)も気圧の高い方から低い方へ流れます。そのため、シベリアの高気圧から日本の東の低気圧に空気が流れ込み、北西の季節風になります。冬の日本海側に大量の雪が降るのは、この季節風がシベリアの乾燥した空気を日本列島に運ぶ途中に大陸よりも水温が高く暖かい日本海で大量の水蒸気を含み、日本の山脈にぶつかって日本海側に大量の雪をもたらします。ちなみに、季節風は山脈を乗り越え、冷たく乾いた風となって太平洋側に吹き付け、寒い冬になります。七五三の法則に戻ります。山が急なほど等高線の間隔が狭く水の流れが速くなるのと同じように、等圧線の間隔が狭いほど風の流れが速くなります。北海道付近にかかる等圧線が多ければ多いほど季節風が強く吹くため、日本海を渡る季節風はより多くの水蒸気を含み、日本海側に大量の雪を降らせることになるのです。」

## 令和2年度校内展覧会

今年度の展覧会が1月29日(金)、30日(土)の二日間にわたって行われました。日常の教科学習、部活動の取り組みを通じて制作された作品等がアリーナホールや武道場に展示されました。立派な作品、ユニークな作品等さまざまな作品が会場には展示されました。日々の学習の成果の結集で参観しながら素晴らしいなと感じました。いろいろな作



品が並び、比較しながら見ることで、あらためて学習に役立ったこともあったのではないでしょうか。

今年度、生徒の展示見学は出来る限り分散して行うために各学年を二つに分割して行いました。また、いつもの年であれば土曜授業の公開とともに行われますが、今年は密を少しでも避けるために、残念ながら授業は公開いたしませんでした。しかし、そのような中、174名の保護者の方々が展覧会にお見えになり、ご参観いただきました。ありがとうございました。











### オリンピック・パラリンピック教育 2/5

2年生でオリンピック・パラリンピック教育として、地域の吉田義肢装具研究所の方々をお招きし、義肢等の使用や制作について人権や進路学習を兼ねた学びを行いました。 最初に、全国にはおおよそ下肢で6万人、上肢で8万二千人の義肢装具を利用している方が居る説明がありました。義肢装具には装飾用、日常用、作業用、スポーツ用などがあり、その制作にあたっては本人の生活習慣、職業、活動度、本人の希望などを十分に聞き取り制作するそうです。また、制作後には仮合わせ、装着訓練、仕上げ、納品という流れを経て、十分な配慮をした上で作り上げていくそうです。学習の最後に、代表生徒によっていくつかの装具の装着体験を行いました。子どもたちは、「良くできている」、「ぴったりと装着される印象がある」という感想を述べていました。いろいろな方々の困難な生活状況を克服するために制作される義肢装具。そこには人への十分な思いや配慮、そして優しい心遣いが感じられました。





